

事例 2：自らの保育のエピソードと併せて、チェックリストを考える

<p>1. 実施方法</p>	<p>研修会で活用。</p> <p>① 県保育士会に加盟するすべての保育所・認定こども園に対し、<u>保育者の気づきや考察を自らの保育のエピソードと絡めながら、チェックリストや子どもの権利条約について話し合う園内研修の実施を依頼。</u></p> <p>② 各園から持ち寄ったエピソードを、県内の各ブロックで精査する。</p> <p>③ 各ブロックで精査したエピソードを冊子にまとめ、県内ブロック保育士会の代表が集まる研修の際に、<u>資料として配布。</u></p> <p>④ 研修では、午前中には<u>各ブロックのエピソードや各園での研修の進め方を報告</u>し合ったあと、それをふまえての<u>ディスカッション</u>を行う。午後は、<u>子どもの権利条約についての講演</u>をいただく。</p>
<p>2. 実施による変化</p>	<p>【個人の変化】</p> <p>○ エピソードを書く際に、チェックリストを参考にし、自分の保育を振り返ることができた。また、園内研修として職員で話し合い共有することで、新たな気づきがあり、<u>自分の保育を客観的に振り返ることができた。子どもや保護者の見方が変わり、寄り添うとはどのようなことが考えるようになった。</u></p> <p>【組織としての変化】</p> <p>○ 県保育士会研修会は、主に制度について学び合う場である。今回の指針改定や児童福祉法の改正に絡めて、子どもの権利を考える機会において、<u>チェックリストが有効活用され、そのことが、職員の質を高めることにつながった</u>と考える。<u>県としての研修企画にもつながる。</u></p>
<p>3. 実施者の感想</p>	<p>○ チェックリストの存在は知っていたが、エピソードを書く際の資料として読み返した時、<u>自分の保育中にも、子どもの権利を侵害していないか、考えるようになった。</u></p> <p>○ チェックリストを通して、場面ごとの振り返りを行ったり、チェックリストに記載されている「より良いかわりへのポイント」を読んだりしたこと、また、職員間での話し合いをすることで、他の見方にも気づき、どうすれば子どもの最善の利益を守ることができるのか、さらに考えるようになった。とくに、<u>配慮を必要とする子どもへの保育観は変わった</u>ように思う。</p> <p>○ チェックリストと合わせて子どもの権利条約についても学んだが、子どもの権利条約の4つの柱を保育のエピソードと絡めて考えるのは難しかった。しかし、考えて話し合うことが重要と言われ、<u>考えたことを他園の方と意見交換できたのは良かった。</u></p>